

ほろゆきん

325 チーズ



大崎短歌会

兼題「田植え・自由」

田植えする子等の笑顔よ泥撥ぬよ

今年の秋の実り願えり

我が母校明治五年に誕生し

歴史重ねて「祝」百五十

夕焼けに早苗染まりし畦に立ち

一息友の輝く笑顔

代掻きの終わる田の面に夏陽映え

早苗配るは遠き日の我

白鷺の植田の中に何漁る

太き脚もて稲踏まぬかと

幼な頃友と唄いし田植歌

其の友今は黄泉の彼方へ

栞山重子

川崎健一

井元かず子

本後淑子

穂園芳江

実吉安仁

朝ごとの田植え終わりし横瀬田は

人影もなく白鳥数羽

ホタルブクロつばみほのかに色づきぬ

母の日近し里閑かなり

吾を生みて七日の後に足袋を履き

田植えしたると母は語れり

水鏡の加賀の植田や育める

地震を生きぬく俵思ひぬ

何とまあ短歌をノートに書きたれば

便意もよおすこの嬉しさや

坂元つる子

上南紀子

山下海征

馬場みさ

原田葉子

薩摩郷句

兼題「天井」

満席で 天井かい御礼ん 国技館

(唱) 横綱休場は 何も構まじ

北村虎王

天井しゆ仰向つ 涙堪えた 亭主の小言

(唱) 泣けば負けじゃち 堪えっ歯嚙ん 上窪小絵

雨漏いが 天井し大つ小もん 染ぬ描つ

(唱) 世界地図じゃち 来た友人し自慢 遠矢耐多

悪戯坊主 謝いながい 天井しで泣つ

(唱) 謝つみたが 腹が切いうえつ 上村牛歩

天井し青大将 肝が冷えくだ 臆病者

(唱) 腰が抜くいめ 吃驚つ逃げつ 満石うらら

家も古りが 分限者殿の 高か天井

(唱) 天井も高こし 材木も立派 諸木小春

天井し登つ 雨漏れ探け 踏ん穿げつ

(唱) 漏いどこやして 天井かいジャージャ 藤元鬼瓦

夜の夜中け 天井で騒動すい また鼠

(唱) 何処かい入ったか 寝つちよらならん 長重リリー

乳飲ん児が 天井の節しゆ見つ ぐつぐ飲つ

(唱) 母さんぬ見て 飲んみゃんせ言つ 二見愚楽満

かくれんば 天井し居い俺ゆば つ忘れつ

(唱) 隠れ過ぎたか 探けもされじ 西ノ園ひらり